企画・制作／高知新聞社営業局

エネルギーと共に70年

”人を育て人が育てる“ヒワサキ

1949年4月、高知市帯屋町二丁目で創業して以来、高知県のエネルギーと暮らしのインフラを支える総合企業として事業領域を広げてきた「株式会社ヒワサキ」。人を重んじ、人とのつながりを大事にする、「人を育て人が育てる」ヒワサキグループの70年の歩みと今後の展望について、久家博明代表取締役社長、日和﨑守代表取締役副社長にお話を伺いました。

（聞き手＝高知新聞社営業局長・高橋敏彦）

高知基地のガスタンク

お客さまニーズに応じ事業領域を拡大

――創業70周年おめでとうございます。石油事業から始まり今日に至るヒワサキの歩みについてお聞かせください。

久家　1949年4月に、高知市帯屋町に個人経営のガソリンスタンドをオープンし、その4年後に「日和﨑石油株式会社」を設立しました。高知県内の漁業や農業分野における石油製品需要の拡大やモータリゼーションの発展とともに成長し、おかげさまで70周年を迎えることができました。地域の皆さまに支えられてのことと、深く感謝いたします。

久家 博明 社長

社会の要請と、お客さまのご要望に一つ一つお応えしていく中で、石油製品の供給・販売のみならず、工場や施設園芸などの産業用エネルギー、暮らしに寄り添うホームエネルギー、住みやすさをお手伝いする住宅リフォームなど、事業領域を拡大してまいりました。

ひとえに取引先企業さまをはじめ、私共の取り扱う製品や商品をご利用いただく多くの皆さま、そしてヒワサキの礎を築いてこられ、素晴らしい財産を引き継いでいただいた先輩方、今共に汗を流して働く社員のおかげと、心より御礼申し上げます。

――昨年、グループ企業を合併し、組織改革をされました。どのような狙いがあったのでしょうか？

日和﨑　弊社は石油を軸として事業を行い、いろいろな分野に参画する中、事業単位で組織を分社化し、独立採算で発展してきました。その当時は時代に合った考え方で正しい道だったと思います。

しかし、世の中とお客さまのニーズが変化する中「一つの分野だけに注力すればいいという時代ではない。あらゆることにアンテナを張り、よろず屋精神を持って石油屋から脱却しよう」という考えの下、まず2011年に「日和﨑石油」から「ヒワサキ」に社名を変更しました。またグループとして同じベクトルで進むべきところが、分社化した会社ごとにそれぞれの意識の違いが生まれ組織の壁となり弊害となってきました。そこで、創業から70周年の19年4月に再び一つの組織になってベクトルを合わせようと分社化した会社を合併させました。かつて日和﨑石油という会社でさまざまなものを提供していた頃の意識に戻すという、いわば原点回帰です。

――あらためて、現在のヒワサキグループの事業領域についてお聞かせください。

久家　石油製品やLPガスを直接または販売店さまを通して、安全に、安定的に供給することが私共の基本的な役割であり、現在の主な事業となっております。その他、リフォームなどの住環境サポート事業、太陽光発電による販売・施工事業、水産資源を活用する新事業にも着手しています。

19年4月からは、四国電力さまと提携し「おトクeプランforヒワサキ」という社名の入った電気料金プランを設けていただきました。従来からプロパンガス・ガソリンスタンドをご利用いただいているお客さまに電気料金プランをご利用いただくことで、よりお得にお使いいただける弊社独自のサービスをスタートし、多くのお客さまにご利用いただいております。電力への取り組みも「よろず屋精神」の一つで、お客さまに喜んでいただきたいという思いで取り組んでいます。

私共は石油関連の事業で成長し、エネルギーを通じて皆さまのお役に立てるという思いで今日までまいりましたが、やはり地球環境に負荷を与える要因の一つであることは間違いありません。この限りある資源を高効率的に利用し、環境に優しい調和型社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの活用を含めたエネルギーのベストミックスの提案を行っております。

――新事業に着手しているとのことですが、どういう事業でしょうか。

日和﨑　高知県の持つ自然環境の豊かさという強みを生かし、数年前から水産資源を活用した新しい事業に取り組んでいます。19年4月から本格的に事業化したのが、大月町宿毛湾でのマダイの水産養殖です。宿毛湾事業所を立ち上げて、商業生産をスタートしました。

久家　宿毛湾は、海面養殖について非常に優れた環境があります。その環境を生かした事業をしたかったこと、地域の方々と一緒に仕事をしたいという思いがあったことが、水産養殖事業を始めた理由です。世界的に魚の需要が高まり、水産資源の減少が課題となる中、安心・安全な食資源の創出、さらには漁業者の高齢化、人口流出といった社会課題に対しても貢献したいと考えています。

日和﨑 守 副社長

”三方よし“の考えが経営理念の根幹

――まさに、幅広い分野での展開ですね。グループの底流にある経営理念について教えてください。

日和﨑　「社員の為の企業であれ」「顧客に求め続けられる企業であれ」「真に社会に貢献できる企業であれ」の三つを経営理念に掲げています。

まず、弊社の従業員は単なる「働き手」ではありません。一人ひとりが、会社組織に属しながら自己の成長を遂げ、人生を謳歌（おうか）することが、結果としていい組織を生むのだと考えています。強烈な個性を持ったトップからのトップダウンで進むことが合理的な時代もありました。しかし、今は社員一人ひとりの個性で創り上げていくボトムアップこそが会社の強みと考えます。それぞれの個性を生かし共に組織を良くしていく、ダイバーシティーの考えが必要と感じています。

人と人との関わりを大事にし、人を大切にする社風が育っており、「人を育て人が育てる」という言葉を使っていますが、これが私共の企業精神です。社員一人ひとりを大切に育て、社員一人ひとりがヒワサキを育ててくれているのです。

また私共が扱っている商品は、1回買って終わりではなく、インターネットで売買するようなものでもありません。お客さまに「ヒワサキで良かった」と思っていただけるように商品だけの商売ではなく、人との関わりを大切にしています。私たち売り手だけが利益を得るのではなく、買い手、地域の三方よしの考えが経営理念の根幹にあり、地域に根差し、共に発展するべきだと考えています。

――地域貢献という点では、エネルギーを供給する事業者として災害への備えも重要になってきます。

久家　南海トラフ地震は、近い将来必ずやってきます。有事の際に一番必要とされるものの一つが私共の取り扱う燃料です。物流をはじめとする供給インフラを維持することが地域貢献につながると考えております。また、LPガスの災害復旧は県外の事業者さまと協力・連携して作業に当たる体制を構築しています。

そして、弊社のガソリンスタンドの多くは自家発電設備を備えた災害対応型給油所としております。95年の阪神淡路大震災の時に、燃料はあるけれど停電で計量機が動作しないという状況があったことを教訓に、電力が途絶えた際も燃料の供給を継続できるよう、弊社で災害対応型給油所のシステムを開発しました。

日和﨑　太陽光パネルと蓄電池のセットにディーゼル発電機を併設し、生活用水の確保のために貯水タンクを備え、災害時でも災害復旧の拠点となるシステムです。電源を確保することで燃料供給は言うまでもなく、地下水をくみ上げて生活用水を確保する店舗もあります。それを05年から全国に展開し、関東を中心に宮城県から長崎県まで30カ所ほどのガソリンスタンドに設置していただきました。11年の東日本大震災の時には効果を発揮しました。

――とても心強いお話です。その他にも、いろいろな地域貢献活動をなさっていることと思います。

日和﨑　防災の面でいえば、県内の全市町村にポータブルのプロパンガス発電機を寄贈させていただきました。弊社が取り扱うプロパンガスは普段から身近にある分散型のエネルギーです。災害時、ガソリンが適正に供給できない状況でも、ご利用いただいているあらゆる場所で入手することができます。携帯電話の充電、ラジオやテレビで情報収集などにお使いいただくことで少しでも災害復旧のお役に立てればとの思いからです。

また、地域に必要な人材を育てるという意味で、高知大学と高知高専の学生に独自で奨学金を出しています。優秀な人が育っても県外に流出してしまうことが多い昨今、高知県内で就職する高知の未来を担う学生さんを応援しています。

挑戦を忘れず心豊かに働ける組織に

――今後、100周年に向けて、どのように進んでいかれるのか、その思いをお聞かせください。

久家　いつの時代においても、この事業であれば絶対大丈夫というようなものはないと思います。まずはベース事業の社会的役割と責任を意識し、堅実に一歩ずつ歩んでいかなければなりません。その上で、さまざまなことに目を向け、挑戦を忘れない組織を全員で創っていくこと。もう一つは社員の皆さんが心豊かに働ける組織づくりが次の100周年に向けての姿勢であると考えております。

日和﨑　新たな取り組みとしては私の中にもいろいろなアイデアがありますが、物事をトップダウンで決めるのではなく、社員の皆さんにもアイデアを出してもらい、熟考し新しい事業として形にしていきたいと思っています。

今後も石油製品が主要な取引であることは間違いありませんが、“石油屋”からの脱却という方向性をしっかりと見据えてまいります。100周年に向けてさらに成長するには、若い人たちの力も必要です。社員の力を結集し、共につくり上げていく組織を目指してまいります。

ヒワサキ70年の歩み

1949年	高知市帯屋町において個人経営で発足
1953年	日和﨑石油㈱設立
1955年	中の島油槽所設置（高知市）
	上町GS開店（高知市）
1959年	土佐清水油槽所設置（土佐清水市）
1961年	野市GS開店（香南市野市町）
1962年	野市油槽所設置（香南市野市町）
1963年	高知基地（LPガス）設置（高知市）
1967年	大阪支店設置
	都島中通GS開店（大阪市都島区）
1969年	IS森小路163GS開店（大阪市旭区）
1970年	窪川基地（LPガス）設置（高岡郡四万十町）
1973年	物部基地（LPガス）設置（南国市）
	空港GS（オートガス）開店（南国市）
1983年	南国バイパスGS開店（南国市）
1987年	東京支店設置
1999年	美術館通りGS高知初 完全セルフ給油所開店
	ヒワサキオートサービス開店
2005年	四国初 災害対応型給油所認定
2007年	中の島新事務所竣工（高知市中の島）
2011年	株式会社ヒワサキに社名変更
	中の島事務所屋上に津波対策避難所設置
2013年	㈱溝渕石油店を吸収合併
2016年	新産業分野事業開始
2019年	イー アンド イー㈱、四国エネルギー共販㈱、㈱オフィス ヒワサキを吸収合併

発足時の帯屋町スタンド

都島中通GS

現在のヒワサキ本社社屋

Going

「Going」は、周年を迎えたり、新たな展開に向けて節目を迎えた企業・団体を紹介する広告シリーズです。

おかげさまで創業70周年　～ すべてのお客様へ感謝をこめて ～

株式会社ヒワサキ

おかげさまで70周年 70th since 1949

- 株式会社ヒワサキグループホールディングス
- イー アンド イー電力株式会社
- 四国エネルギー物流株式会社
- よさこいエルピーガスセンター株式会社